

令和6年度 第2回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 次第
(川西市環境審議会部会)

日時：令和7年1月14日 14:00～

場所：川西市役所 4階 庁議室

1. 委員長 あいさつ

2. 委員 紹介

3. 議事

令和7年度に向けた生物多様性ふるさと川西戦略の方向性等について

【資料1】【資料2】

4. その他

(1) 舎羅林山地区開発、市南部物流センター建設における環境アセスメントについて 【資料3-1】【資料3-2】

(2) 出在家町(川西北小学校横)キセラ川西の市街地水路の水生生物群の保存のための啓発について 【資料4】

(3) 委員会の開催計画について 【資料5】

5. 市民環境部長 あいさつ

【配付資料】

令和6年度 第2回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 次第

令和6年度 第2回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員 名簿

令和6年度 第2回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 座席表

【資料1】生物多様性ふるさと川西戦略評価指標

【資料2】生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査(令和5年度)

【資料3-1】舎羅林山開発計画

【資料3-2】第1章 事業計画概要

【資料4】(案)キセラ川西の市街地水路の水生生物群の保存のための啓発について ~ 出在家町(川西北小学校横) ~

【資料5】委員会の開催計画について

川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）委員名簿

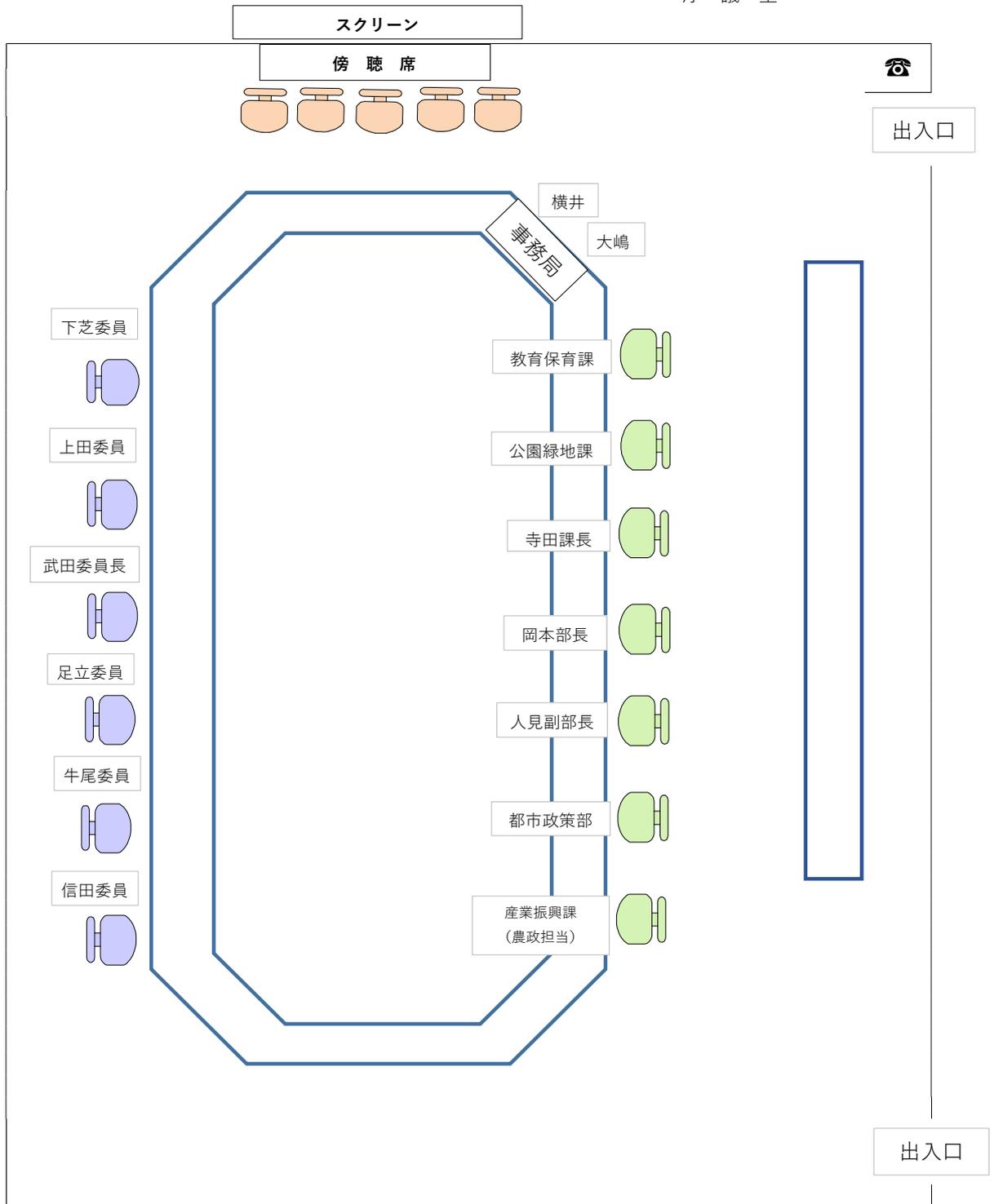
委嘱期間 令和6年7月1日～令和8年6月30日

No.		氏名	役職	選出区分	備考
1	委員長	武田 義明	神戸大学人間発達環境学研究科 名誉教授	学識経験者	環境審議会 委員
2	委員	足立 隆昭	兵庫丹波オオムラサキの会 会長	学識経験者	
3	委員	上田 萌子	大阪公立大学准教授	学識経験者	
4	委員	牛尾 巧	一庫公園管理事務所長	学識経験者	
6	委員	下芝 勇登	流域ネット猪名川 代表	学識経験者	
5	委員	信田 修次	能勢妙見山ブナ守の会副会長	学識経験者	

五十音順

令和6年度 第2回 川西市環境審議会部会
(生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会)

令和7年1月14日(火) 14時～
庁議室



生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標

No.	基本戦略	評価指標	担当課	目標値	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)	備考1	①前回委員意見(赤字) と前回市回答(黒字)	②担当課回答 (前回委員意見に対する回答)	備考2
1. 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育														
1	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	保育所	教育保育課	市立保育所の全園児・保育士	-	440							
2	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	幼稚園	教育保育課	市立幼稚園の全園児・教諭	-	761							
3	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	小学校	教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年生	3904 (対象者全員)	3,531 (対象者全員)							
4	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	中学校	教育保育課	市立学校の全中学2年生	1243 (対象者全員)	1,206 (対象者全員)							
5	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	研修を受けた年間の教職員数(人)		教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年教員	45	19					②(委員)研修を受けた教職員数について、令和3年度が45名だったが、令和5年度は19名ということで半数以上減っているが、理由は？	②(教育保育課)令和3年度にはALT(外国語指導員)からの参加もあったが、令和5年度ではそちらからの参加者がおらず、学校教職員のみでの参加であったため。	
6	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	環境に関する公民館講座を受けた人数(人)		川西公民館		-	78							
2. 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発														
7	◆広報や市HPによる情報発信	1年間の各HPへのアクセス数(件)		環境政策課		7,289	8,767							
8	◆広報や市HPによる情報発信	1年間に紹介した自然環境の数(件)		環境政策課		4	5							
9	◆本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	指標「景観」に関心のある市民の割合(%) (市民実感調査)		都市政策課	85.0	-	82.6							
3. 生物多様性保全の取組みの強化														
10	◆市民生活での生物多様性保全の活動の支援	2032年に実施予定のアンケート調査結果		環境政策課							2032年に実施予定			
11	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	指定・登録文化財(天然記念物)の件数(件)		生涯学習課	-	-	13							
12	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	緑地における維持管理団体数(団体)		公園緑地課		-	3							
13	◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	1年間に捕獲した有害鳥獣及び外来動物の数(頭)		産業振興課	291 254	193	213					令和5・6年度時点の川西市鳥獣被害防止計画に合わせた目標数値に変更。		目標値(291)は令和5年度までのものであった。令和6～8年度を計画期間とした新たな川西市鳥獣被害防止計画を策定したため、目標値も変更した。
4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大														
14	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1年間の情報交換などの実施回数(回)		環境政策課		1	1							

生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標

No.	基本戦略	評価指標	担当課	目標値	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)	備考1	①前回委員意見(赤字) と前回市回答(黒字)	②担当課回答 (前回委員意見に対する回答)	備考2
15	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1年間に支援したボランティア数	産業振興課	250	267	153					市以外の支援制度を活用した団体等があり、数値が減少した。	③(意見)1年間に支援したボランティア数が減っているのは、市以外の支援制度を活用しているところがあるが、市以外の支援制度をかなり受けているのか。皆さん、市以外のところでされているのか。また、市以外から支援を受けたら、川西市では支援を受けられないということなのか。	③(産業振興課)国や県のほか、民間団体等の支援を受けて活動されていると聞いています。「支援したボランティア数」の減少については、支援制度の併用可否のほか、活動団体数の減少も影響していると考えます。本市以外の支援制度が、本市の制度との併用が可能かどうかは把握しておりません。令和5年度までの本市制度は他の支援制度との併用ができませんでした。令和6年度以降は、取組ごとに財源を整理いただけるのであれば併用可能な制度としました。	
16	◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	1年間に実施した河川美化活動の回数(回)	美化推進課		12	8								
17	全体に対する意見											①(委員)目標値が書かれていないところがあるがこれはどのようにされるのか。 (市)「もともと数値目標と比較していくのが困難な指標なので定めにくく、ご意見はいただいているなかでなかなか設定できていない」というのが現状である。委員会の場などでのアイデアとかお聞かせいただいたことを所管課にフィードバックしたりすることで、また設定できればと考えている。		

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和5年度)

自己評価の評価方法

- A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
- B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
- C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
- D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己評価	令和5年度の実施状況(2023年度)	成果と課題	①今後の方向性	②前回委員意見(赤字)と前回市回答(黒字)	③担当課回答(委員意見に対する回答)
1	基本戦略1	1)	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	① 就学前園児の環境教育方針	国の定める3法令や市規定の全体的な計画などに基づいて、各園所で計画を立てて、園所内の自然環境を生かした取組みや県や市の企画に参加したりして環境保育に努めていきます。	教育推進部	教育保育課	A	園所ごとに計画を立て、教育・保育活動を行う中で、植物や生き物に触れたり、興味を深めたりした。	園庭、所庭での自然物等だけでなく、散歩や遠足で近隣の公園、小学校等にも訪れ、自然とのふれあいを楽しむことができた。また、兵庫県立人と自然の博物館が実施している「エコロプロジェクト」に参加した園所もある。	自然とのふれあい、探究心や好奇心などが育まれることを踏まえ、今後も継続的に計画に反映し、教育・保育活動を実施していく。	
2	基本戦略1	1)	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	② 小学校体験活動(環境体験)	小学校3年生を対象とした「環境体験」を実施し、児童が普段生活している地域の自然の中に出かけて環境体験をします。また、本市独自の自然や産物を知り、それらを広めていくことで、環境問題を考え解決していく素地を育んでいきます。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で校区内の地域の畑や河川、公園、猪名川流域等へ行き、植物や動物等に触れた。	小学校3年生の児童が環境問題に興味関心を持つようになった。また、校区にどのような環境があるかを学ぶことができ、川西市の特産品を学ぶなど、地域の方々と共に活動することができた。地域によっては活動プログラムが確立されておらず、地域での活動が希薄である小学校があることが課題である。	地域参画を目指し、SDGsの視点を取り入れ、各小学校の独自性を活かした小学生が主体的に環境教育に取り組むことができる環境体験プログラムを構築していく。	
3	基本戦略1	1)	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	③ 里山体験学習	小学校4年生を対象に「里山体験学習」を実施し、日本一の里山である黒川地域を体験活動の場として、自然に対する畏敬の念をはじめ、生命のつながり・環境保護の大切さを実感し、美しさに感動する豊かな心を育んでいきます。本市の自然特性を活かした、独自の環境教育です。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で2回以上実施した。黒川地区へ行き、植物や動物等に触れた。また、黒川地域の方々に触れ、里山と共に人間がどのように生活してきたかを学習した。社会教育団体の方々と共に、里山資源を使い、木工クラフト等を作成した。	小学校4年生が黒川の方々と社会教育団体の方々の協力を得て、川西の特産品をはじめ、環境問題や生活の知恵等、幅広く学習することができた。里山と人間がどのように関わってきたかを学習し、SDGsについて理解を深めることができた。黒川地区のサポーターの方々が、年々減少しているが、広域に募集を行い、増員することができた。	黒川地区のサポーターの数を増員し、少人数による体験学習を実現できるようにする。サポーターの方々の資質向上を目的とした実地研修や、活動内容をより良くしていくための打ち合わせを増やしていく。	④(委員)サポーターの数を増員するという記述があるが、里山サポーター会の協力を得られるように市のほうでも支援をしていただきたい。
4	基本戦略1	1)	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	④ 小学校体験活動(自然学校)	小学校5年生を対象に「自然学校」を実施し、児童が兵庫県にゆかりのある人や自然、地域社会と触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育んでいきます。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で兵庫県内での長期宿泊体験を通して、兵庫県の自然、生物に触れ、理解を深めた。	小学校5年生の児童が環境問題により興味関心を持つようになった。また、県内にどのような環境があるかを学ぶことができ、川西市の良さや特徴を学ぶことができた。施設によって、活動時期の選択肢が限られたり、看護師などの外部人材の確保、教職員の負担が大きいことが課題である。	引き続き、充実した自然学校を実施したい。そのために、今年度から始まった自然学校人材バンクの活用や、市のHPを通じて看護師などの外部人材の募集に力を入れていく。	
5	基本戦略1	1)	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	④ 中学校教育支援	中学校2年生を対象に地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てるとともに、自立性を高め「生きる力」を育んでいきます。	教育推進部	教育保育課	A	市内7中学校の2年生と川西養護学校の中学部2年生について県立一庫公園などで実施した。地域や自然の中で、地域の方々と従業員の方々と環境保全体験や職場体験を行った。	地域や自然の中で、地域の方々と従業員の方々と環境保全体験や職場体験を行い、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てることができ、「生きる力」を育むことができた。	地域参画の視点を継続する中で、SDGsの視点を取り入れていく。地域の事業所やボランティアの方々と継続して「トライやる・ウィーク」に今後も取り組んでいけるように関係を構築していく。	
6	基本戦略1	2)	教職員や市民を対象とした研修の実施	① 教育研究	教職員対象に「環境体験研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを体験し、自然・生物・環境教育など体験的な研修を行っています。	教育推進部	教育保育課	A	教職員対象に「環境体験研修」と「里山フィールド研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを教職員が体験した。	日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などの恵みを教職員が再認識した。各学校の実情に合わせて教職員が児童へ授業するには専門的な知識の定着が課題であり、川西市を教材とした環境学習プログラムの定着も同様である。	継続的に「環境体験研修」と「里山フィールド研修」を実施し、専門的な知識の定着を教職員に図るとともに、川西市を教材とした環境学習プログラムの定着も同様である。	

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和5年度)

自己評価の評価方法

- A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
- B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
- C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
- D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己評価	令和5年度の実施状況 (2023年度)	成果と課題	①今後の方向性	②前回委員意見(赤字)と前回市回答(黒字)	③担当課回答(委員意見に対する回答)
7	基本戦略1	2)	環境学習の充実	公民館などの学習の充実を図り、様々な世代への環境教育も充実させていきます。	市民環境部	川西公民館	A	清和台公民館(まち山「虫生の森」を探検)、川西公民館(子ども生きもの観察隊〜小川で水生生物観察〜)、けやき坂公民館(自然観察セミナー「芋生川の生き物・ふしぎ・発見」、東谷公民館(冬の野鳥観察)を実施し、4館合計で78人が環境に関する公民館講座を受講した	各館で地域の特性に沿った環境学習を実施した。各館で地域ニーズと合わせて工夫しながら講座を開催していることから、全館で実施とはなっていない。	関係所管課と協力して環境学習の充実に努める。		
8	基本戦略2	1)	自然環境情報の発信	市HPや広報かわにしなどの媒体を通じ、かわにしの自然環境、生物多様性に関する情報を定期的に発信することにより、ふるさと川西のすばらしさを伝えていきます。	市民環境部	環境政策課	A	以前から市HPに自然活動団体や企業を紹介するページを設けている。令和5年度にはシロバナウンゼンツツジの公開やオオムラサキの羽化など自然活動団体の活動を広報誌に掲載した。	市広報誌を中心に自然活動団体の活動を紹介することが出来た。今後は市HPの各団体の紹介ページを更新していくとともに活動内容を発信していく必要がある。	市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していくとともに活動団体や企業を紹介するページの内容等を更新し、引き続き情報発信に努める。		
9	基本戦略2	1)	国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及啓発	生物多様性に関する国や兵庫県の情報について、市HP上で概要版の掲載やリンクを貼り、一元で閲覧でき、情報が入手しやすくなるよう整備します。	市民環境部	環境政策課	A	国・兵庫県からの情報を把握したタイミングで、HP、メールなどを活用し市民、自然活動団体に情報を提供した。	市民や自然活動団体等にとって有益な情報を把握して発信することができた。	引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、最新情報を広報やHPに掲載していく。また、市民が迅速に情報を閲覧できるようHPの配置を工夫する。		
10	基本戦略2	1)	観光の推進	市HPや観光マップなどを通して、市の自然や歴史、市内の観光地のPRを行っています。	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	市観光協会と協力し、市の自然や歴史、観光地を紹介するパンフレットを更新した。	パンフレットを更新し、最新の市の自然・観光の情報を発信した。	市内に整備している看板の情報更新やHPの見直しを行いながら、市内の自然や歴史、観光地のPRを進めていく。		
11	基本戦略2	1)	地産地消の推進	本市の特産品であるイチジク、クリ、モモなどについて、市広報誌や市HP等を用いてPRし、地産地消を進めます。	市民環境部	産業振興課	A	モモの即売会を実施。台風の影響等によりイチジクやクリの即売会は実施できなかったが、クリは直売所にて特設ブースを設けて販売され、市HPでPRを行った。また、市内で採れた作物を「川西そだち」とし、PRのぼりを作成・配布し、市HPでもPRを行った。さらに、イチジクは、航空会社とタルト専門店の協力で東京へ空輸し、イチジクタルトを販売し、市HP等でPRを行った。	モモの即売会を実施した。市HP以外にも、PRのぼり「川西そだち」の設置、航空会社やタルト専門店のSNSなど多数の紹介がなされたことで市内外に特産品をPRできた。	引き続き特産品の即売会を実施する。市HPのほか、直売所マップに情報を追加する等、積極的にPRする。		
12	基本戦略2	1)	市街地における里山のPR	JR川西池田駅前ロータリーのクヌギを台場クヌギに仕立てるなど、市街地において、北部の里山の自然を身近に感じられるようにします。	土木部	公園緑地課	A	JR川西池田駅前ロータリーの駅前や阪急・能勢電鉄川西能勢口駅の北側、火打1丁目に位置するキセラ川西せせらぎ公園のクヌギの維持管理を行い、北部の里山の自然を身近に感じられるように努めた。	クヌギは順調に育っており、駅前やキセラ川西を行き交う人々に里山の自然を身近に感じられる場を創出している。	より多くの市民に里山を感じてもらえるよう、継続して維持管理を行う。キセラ川西せせらぎ公園では市民活動団体と協力し、台場クヌギを見据えた剪定を行っており、そうした状況を見ながらJR川西池田駅前ロータリーについても台場クヌギに仕立てていくことについて検討する。	⑨(委員)JR川西池田駅のところ里山のPRが目的とされているならば、もうちょっとPRしてもいいのかなと思うがどうか。(市)公園緑地課が主管になるが、JRのところは通常の剪定を依頼してやっており、台場クヌギへの展開はしていないという状況だが、またタイミングを見て、検討していくという話である。	⑨(公園緑地課) 前回事回答のとおり
13	基本戦略2	2)	再生可能エネルギーの普及啓発	市役所本庁舎南側壁面やキセラ川西プラザ、市消防本部に太陽光発電システムを設置し、モニターで観察できるようにするなど、地球温暖化対策(地球温暖化による生きものへの衰退・絶滅の防止)として再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を進めていきます。	市民環境部	環境政策課	A	キセラ川西プラザと消防本部についてはモニターに発電状況を表示した。一方、市役所モニターについては部品の不具合により活用できていない。	キセラ川西プラザと消防本部についてはモニターで発電状況を見ることができる状態であり、来場者に再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を行うことが出来た。一方、市役所モニターについては部品の不具合により活用できていない。	キセラ川西プラザと消防本部については引き続きモニターで再生可能エネルギーの啓発を行う。市役所についてもモニター部品の交換を実施し、モニターでの啓発を行う。		

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和5年度)

自己評価の評価方法
 A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
 B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
 C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
 D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己評価	令和5年度の実施状況 (2023年度)	成果と課題	①今後の方向性	②前回委員意見(赤字)と前回市回答(黒字)	③担当課回答(委員意見に対する回答)
14	基本戦略2	2)	本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	② 景観形成の情報発信 川西市景観計画により、市の自然や歴史文化をはじめとする様々な景観資源を活用し、魅力的な景観を周知するとともに、景観形成に向けた取組みの啓発を進めていきます。	都市政策部	都市政策課	A	・川西の魅力を高める景観創出のため、御社橋(市道275号)拡幅整備事業などで公共施設等景観形成ガイドラインの運用を行い、カルテをホームページで公開した。 ・まちなみギャラリー(写真・絵画の募集)・ビューポイント・景観の取組み紹介等の市民や事業者の活動をインターネットを使って発信することにより、参画と協働を推進する仕組みづくりを行った。 ・令和6年3月に景観計画の見直しを公表し、本編のPDF公開に加え、概要版として気軽に閲覧できる計画の紹介ページを作成した。	・公共施設を設置する各事業課において事業が昨年で終了したものが多く、件数が減った。 引き続き新規事業がある場合、維持・管理の方針が決定または変更される場合に運用してもらえるよう、関係各課に周知、カルテの作成の依頼を行っていく。 ・景観啓発の取組については、市民や事業者の活動をインターネットを使って発信することにより、事業者や市民にも情報発信できた。	今後もSNSや動画を活用することで積極的な情報発信を行い、川西らしい魅力的な景観の形成を進めていく。		
15	基本戦略3	1)	市民生活での生物多様性保全の活動の支援	① 外来種対策の推進 外来種の侵入経路、影響、対策の必要性や市民でも実施できる外来種対策の方法などをまとめ、市HPなどで広報するなど、外来種に対する対策を進めます。	市民環境部	環境政策課	A	以前からヒアリやセアカゴケグモについての対策、方法などを市HPに掲載しているが、R5年度は主に兵庫県から通知されたクビアカツヤカミキリ、アカミミガメ、アメリカザリガニの情報についても市HPに掲載すると同時に自然活動団体や市内部に情報提供を実施した。	主に県から提供された特定外来生物の指定情報について、市HPに迅速に掲載したり、自然活動団体にメールでの情報提供、市内部への情報発信をすることが出来た。	引き続き特定外来生物の情報把握し、市HPへの掲載、自然活動団体や市内部への情報提供を実施していく。	⑦(委員)特定外来生物も含めて、外来生物の存在、あり方と駆除について、考え方や現状を教えてください。 (市)現状としては、県なり国の方でいろいろ新しい指定があったり、対策について情報が環境の部局の方に下りてくるが、それを実際に駆除とか施設を管理している部署や自然活動団体などに情報提供している。あと、ホームページで市民の方に広く情報提供も行っている。各部署なり、各団体に発信することで適正に駆除なり、対策ができるように努めている。	⑦(環境政策課) 前回事回答のとおり
16	基本戦略3	2)	本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	② 文化財保存啓発 天然記念物などの貴重な財産である文化財の保全を進めるとともに、その普及啓発、活用を進めていきます。	市民環境部	生涯学習課	A	県立一庫公園のモリアオガエルの生息地について、文化財審議委員会で協議した。	天然記念物の新たな登録に向けて進めることができた。	市指定・登録文化財(天然記念物)の普及啓発、活用を推進する。		
17	基本戦略3	2)	本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	② ため池などの保全 農業用灌漑のため、水利組合が管理するため池や農業用水路などの補修・改修、水難防止のため、安全柵の設置などへの支援を行っています。今後の改修などに際しては、ため池などにおける生物多様性の重要性に配慮し、進めていけるよう検討していきます。	市民環境部	産業振興課	A	地元水利組合等が実施する農業用施設の補修や改修の工事について支援を行うとともに、工事に際しては生物多様性の重要性に配慮して進めるよう依頼した。	地元水利組合等が農業用施設の補修や改修の工事を実施することで、農業用施設の適切な管理やため池などの保全を行うことができた。	今後も地元水利組合等が実施するため池や農業用水路などの補修や改修の支援を行うとともに、工事に際しては生物多様性の重要性に配慮するよう依頼する。		

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和5年度)

自己評価の評価方法

- A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
- B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
- C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
- D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己評価	令和5年度の実施状況(2023年度)	成果と課題	①今後の方向性	②前回委員意見(赤字)と前回市回答(黒字)	③担当課回答(委員意見に対する回答)
18	基本戦略3	2)	生物多様性に配慮した公園・緑地管理の推進	公園整備の際は、在来種の植樹に努め、特定外来生物の防除に向けた管理を実施していきます。緑地は、生物多様性の観点から、保全する維持管理団体が継続して活動を行えるよう、公園、緑地など、みどりの維持管理活動を行う団体間の連携により、活動を高め合う仕組みづくりを行います。	土木部	公園緑地課	A	開発による提供公園について、事業者との協議を行い、在来種の植樹に努めた。また、市内緑地において、市民活動団体主体の維持管理、緑地の清掃活動により集められたごみの回収を行うなど活動を支援し、まち山の保全に努めた。3団体が継続して維持管理を行うことができた。	公園整備の際は、在来種の植樹に努めることができた。緑地は、継続して一部の緑地の維持管理等を市民活動団体主体で進めてもらうことができている。	公園整備の際は、在来種の植樹に努める。引き続き、団体の支援や連携を図り、緑地の維持管理を行う市民活動団体に関する情報発信を行う。		
19	基本戦略3	3)	ナラ枯れ対策	カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が西日本を中心に発生しているため、被害拡大防止に取り組んでいきます。	市民環境部	産業振興課	A	被害最先端地の指定から外れたため、ナラ枯れの被害拡大防止事業は行わなかった。	ナラ枯れ被害の確認数が減少してきたため、被害最先端地から外れている。	県と連携し、ナラ枯れの発生状況等、動向を注視する。		
20	基本戦略3	3)	有害鳥獣対策	川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物の被害などの防止を目的に、個体数の調整などとしてイノシシやシカの捕獲・処分を行っています。また、鳥獣による食害防止対策としての防護柵設置等に対する補助を行っています。	市民環境部	産業振興課	A	県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にイノシシやシカの捕獲及び処分を実施した。	県猟友会川西支部協力のもと、一定数の捕獲・処分の成果が上がっているが、農作物被害は無くなっていない。	引き続き県猟友会川西支部と連携し、イノシシやシカの捕獲・処分を行い、個体数管理を図っていく。	⑤(委員)防護柵を設置することがあるとも聞くので、そのあたりの支援がどれくらい進んでいるのか現状を教えてください(具体的な件数)。シカ柵、防護柵の設置はもちろんだが、森林を保全している市内の市民活動団体の活動をサポート、推進できるような形で予算をお願いしたい。	⑤(産業振興課)農作物被害防止を目的とした防護柵の設置について、令和5年実績では8件、計約38万円の支援をしました。令和6年度は11月末時点で11件、計約50万円の支援を行っています。
21	基本戦略3	3)	外来生物対策	農作物の被害などの防止、希少種を含めた在来生態系の保全・回復のため、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを対象に捕獲・処分を行います。また、農作物被害防止対策に対する補助を行います。さらに、セアカゴケグモ、ヒアリ、アルゼンチンアリや、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されるクビアカツヤカミキリについて、注意喚起や駆除に関する啓発を行います。	市民環境部	産業振興課 環境政策課	A	【産業振興課】県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にアライグマやヌートリアの捕獲及び処分を行った。 【環境政策課】セアカゴケグモ、ヒアリに加えてクビアカツヤカミキリについて、市HPや自然活動団体へのメールで掲載したり、自然活動団体へのメールで情報提供することが出来た。	【産業振興課】特にアライグマの捕獲依頼申請数及び捕獲数が増え、農作物被害等が多発発生している。 【環境政策課】主に県から提供された特定外来生物の指定情報について、市HPに迅速に掲載したり、自然活動団体へのメールで情報提供することが出来た。	【産業振興課】引き続き県猟友会川西支部と連携し、アライグマやヌートリアの捕獲・処分を行い、農作物被害等の防止に努めていく。 【環境政策課】引き続き市HPや自然活動団体へのメールで外来生物の注意喚起や駆除に関する啓発を行っていく。		
22	基本戦略4	1)	生物多様性に関する情報交換の場の提供	生物多様性に関する取組みを行っている市民、市民活動団体、事業者などが交流、情報交換などができる機会や場所を設けます。「黒川を中心としたまちづくり方針」に基づき、旧黒川小学校グラウンド内に川西市黒川里山センターを整備します。里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、生物多様性に関する情報を発信していきます。	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、R5年に川西市黒川里山センターの新棟を整備した。黒川里山センターは令和5年度より指定管理者による管理運営をおこなっており、旧黒川小学校の南北棟で里山学習の受け入れや生物多様性に関するフィールドワークを周辺施設や関係団体と協力して行った。	令和5年度に川西市黒川里山センターの管理運営を指定管理者が行い、旧黒川小学校南北棟を拠点として生物多様性に関する事業を行うことができた。引続き情報発信していくとともに、地域外の担い手である関係人口の拡大による地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。	R6年度に南北棟の耐震改修工事を行い令和7年度には3棟揃った運営を行う。今後もセンターを中心として情報発信を行っていく。		
23	基本戦略4	1)	森林ボランティアの支援	森林の保全に取り組む森林ボランティア団体の活動支援を行い、日本一の里山と言われる黒川地区の里山を含めた森林の整備に努めていきます。	市民環境部	産業振興課	A	黒川地区の里山を含めた森林の整備を行う市内の森林ボランティア5団体に補助金を交付することで、活動支援を実施した。	各ボランティア団体が黒川地区の里山を含めた森林の整備や保全の活動を継続することができた。	森林ボランティア団体だけでなく、森林保全に取り組む団体等へ支援を広げ、森林の整備や保全に努めていく。		

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和5年度)

自己評価の評価方法

- A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
- B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
- C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
- D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	自己評価	令和5年度の実施状況 (2023年度)	成果と課題	①今後の方向性	②前回委員意見(赤字)と前回市回答(黒字)	③担当課回答(委員意見に対する回答)
24	基本戦略4 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	1)	③ 自然や景観への保全活動をサポート	市街地に点在する自然環境や景観については、市民団体や事業者などが実施する保全活動へのサポート方法を検討します。	都市政策部 市民環境部	都市政策課 環境政策課	C	—(新たな指標)	—(新たな指標)	次年度以降の取組み実施に向け、関係各課で内容を調整、検討する。 住民・事業者等による景観形成の取組みをホームページで紹介する。		
25	基本戦略4 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	1)	④ 事業者との連携及び生物多様性戦略作成の応援	兵庫県立一庫公園、独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所、国崎クリーンセンターなど生物多様性の拠点となる地点を管理する事業者などと連携し、生物多様性の保全活動を推進します。	市民環境部	環境政策課	A	環境フェスタを12月に開催した。その中で国崎クリーンセンター啓発施設ゆめほたるの活動内容を紹介するなど、団体、事業者と連携・協力を維持することができた。	環境フェスタを通じて団体、事業者の活動を市民に紹介することが出来た。	今後も環境フェスタなどを通じて団体、事業者と連携・協力を維持していきたいと考えている。		
26	基本戦略4 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	2)	① 北摂里山博物館構想	都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて活用していくことを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげていく取組みを兵庫県と連携して実施していきます。	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として黒川里山センター新棟を整備した。	令和5年度に川西市黒川里山センター南棟の管理運営を指定管理者が行い、子どもを中心とした里山体験学習等の事業を行った。引続き関係人口の拡大を図り地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。	R6年度に南北棟の耐震改修工事を行い令和7年度には3棟揃った運営を行うため、センターを中心とした北摂里山を持続的に保全しつつ、地域の活性化につながる取組を展開していく。		
27	基本戦略4 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	2)	② NPOなどと連携した河川美化の実施	猪名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っていきます。	美化衛生部	美化推進課	A	NPOなどが実施する河川美化活動の支援として、ごみの収集を8回実施した。	NPOなどと連携し、ごみの収集を行った。	引き続き、NPOなどが実施する美化活動を支援していく。		
	全体、その他				市民環境部	環境政策課				⑥(委員)担当している方の出席も図って、一緒に協議していただくことが可能であればお願いしたい。 (市)実際に委員会とかに出で、直接お聞きしないとちょっとわからないという話になれば、出席するなど考えていかなくてはいけないと思っている。都度、内容とか状況に合わせた形で担当課長なども出席できればと考えている。 ⑧(委員)「川西北小学校前の水路。これは川西市のホームページにも載っているが、この場所を、どこに水路があってどこに貴重な生き物がいるのかということがわかってしまうので、今後場所がわからない形で表記してほしい。」と言う意見に対して、「表に出して地域を挙げて皆で守っていくことが大切」「隠してしまうといつの間にかなくなってしまう。完全に保全しています、というのを知らしめた方がよい」という意見があり、委員会としては「保全地ということがわかるようなことをやっていくということで検討してはどうか」ということになった。 (市)一度検討させていただく中で、場合によっては各委員にご相談させてもらったりして考えられたらと思う。引き続き検討させていただきたい。	①(環境政策課)変更なし ⑥(環境政策課) 4. その他(3)「委員会の開催計画について」で別途説明します。 ⑧(環境政策課) 4. その他(2)「出在家町(川西北小学校横)キセラ川西の市街地水路の水生生物群の保存のための啓発について」で別途説明します。	

1. 自主環境影響調査について

- 平成5年6月に宅地開発に伴う環境影響調査として「(仮称) 信和川西ニュータウン開発計画に係る環境影響評価報告書」(平成5年6月、信和都市開発株式会社)(前調査)を兵庫県に提出しています。
- 前調査では、水質、騒音、振動、地形・地質・土壌、植物、動物、廃棄物、景観、文化財について予測・評価を行っています。
- 本調査ではこの調査項目のうち、本計画の事業特性及び当時と現況の環境変化を勘案し、水質、騒音、振動、植物、動物について現況の状況を再調査し、また、併せて大気質を追加して調査を実施し、本事業による影響を調査しています。

2. 調査地点

- 水質の調査地点は、計画地からの流入前、流入後地点として2地点を調査しています。(地点a、地点b)
- 大気質の調査地点は、計画地内及び道路沿道2地点の全3地点を調査しています。(地点A～C)
- 騒音・振動の調査地点は、道路沿道2地点を調査しています。(地点1～2)
- 植物、動物の調査範囲は、計画地内全域を調査しています。



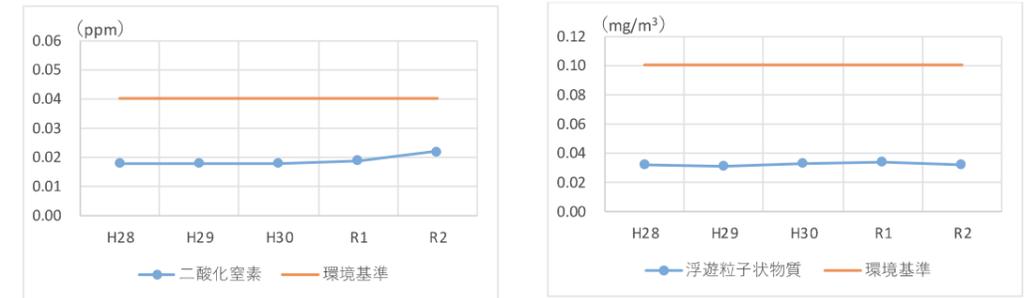
3. 水質

- 水質の調査項目は、生活環境項目(BODなど)、健康項目(有害物質)について実施し、環境基準を下回っていました。※塩川は健康項目のみ環境基準が適用されます。
- 本事業では、公共用水域への雨水以外の排水はないため、将来も現況環境を維持できると評価します。

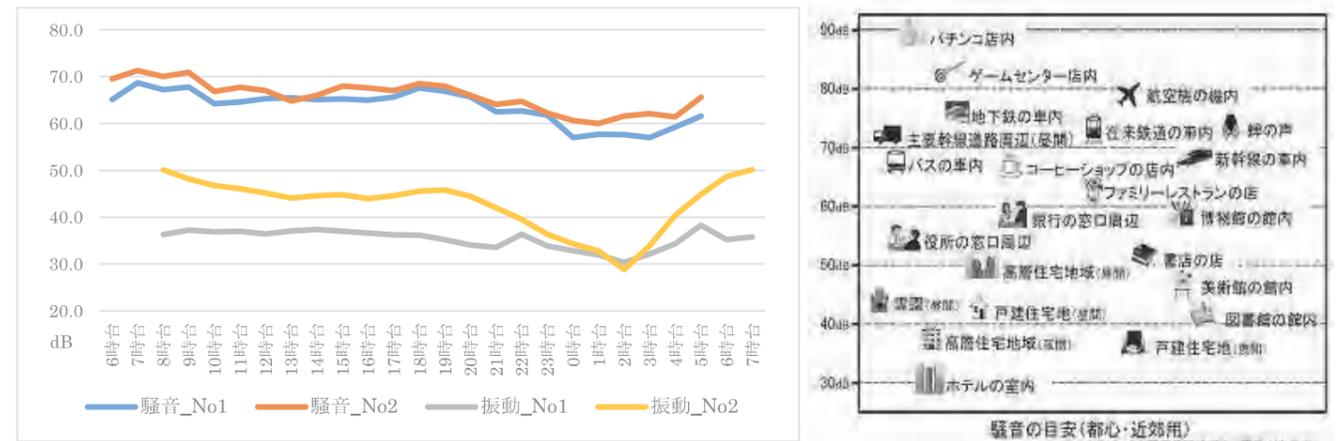
4. 大気・騒音・振動

①調査結果

- 大気質の調査項目は、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質について実施し、各項目ともに環境基準を下回っていました。また、一般環境大気測定局の川西市役所局では二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに環境基準を下回っています。



- 騒音、振動の調査結果は、騒音は環境基準を下回っており、振動は無感(振動間隔閾値※以下)でした。
※通常、人が振動を感じ始めるレベル



- ②予測・評価 ※予測・評価は沿道への負荷が想定されるため、沿道環境について実施しました。

- 大気質、騒音、振動について、現況将来ともに環境基準及び振動感覚閾値を下回っています。

項目	地点	現況	将来	差	環境基準等	
大気質	二酸化窒素 (ppm)	地点B	0.0219	0.0228	0.0009	0.04
		地点C	0.0222	0.0224	0.0002	0.04
	浮遊粒子状物質 (mg/m³)	地点B	0.0348	0.0349	0.0001	0.10
		地点C	0.0348	0.0348	0.0000	0.10
騒音 (デシベル)	昼間 (6-22時)	地点1	66.0	68.3	2.3	70
		地点2	68.1	68.8	0.7	70
	夜間 (22-6時)	地点1	59.9	63.9	4.0	65
		地点2	62.7	64.0	1.3	65
振動 (デシベル)	昼間 (8-19時)	地点1	40.8	42.7	1.9	65
		地点2	49.5	50.1	0.6	65
	夜間 (19-8時)	地点1	39.0	41.3	2.3	60
		地点2	48.5	49.3	0.8	60

5. 植物・動物

①調査結果

○重要種は植物4種、鳥類4種、両生類2種、爬虫類2種、昆虫類4種の計16種を確認しました。

目名	確認種数	重要種			
		科名	種名	重要種区分	
兵庫県レッド	環境省レッド				
植物	95科261種	クワ科	オオイタビ	要調査	
		ヒルムシロ科	イトモ	Bランク	準絶滅危惧
		ミクリ科	ミクリ	Cランク	準絶滅危惧
		ラン科	ムヨウラン	Bランク	
哺乳類	5科6種	—	—	—	—
鳥類	23科31種	チドリ科	イカルチドリ	Bランク	
			アオゲラ	Cランク	
		サンショウクイ科	サンショウクイ	Cランク	絶滅危惧II類
両生類	3科4種	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	Cランク	
			モリアオガエル	Bランク	
爬虫類	4科5種	ヤモリ科	ニホンヤモリ	要注目	
		ナミヘビ科	シロマダラ	Cランク	
昆虫類	113科172種	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	Bランク	準絶滅危惧
			カトリヤンマ	Cランク	
		ミズムシ科	オオミズムシ	Cランク	準絶滅危惧
			コガムシ		情報不足
水生生物	1科1種	—	—	—	—

兵庫県レッド： 兵庫県版レッドデータブック2020、 兵庫県版レッドリスト2017、2013、2012	環境省レッド： 「環境省レッドリスト2020」 (環境省 令和2年)
◆重要種区分 重要度：高 絶滅 ↑ Aランク Bランク Cランク ↓ 要注目 重要度：低 要調査	◆重要種区分 重要度：高 EX：絶滅 ↑ EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 ↓ LP：絶滅のおそれのある地域個体群 重要度：低

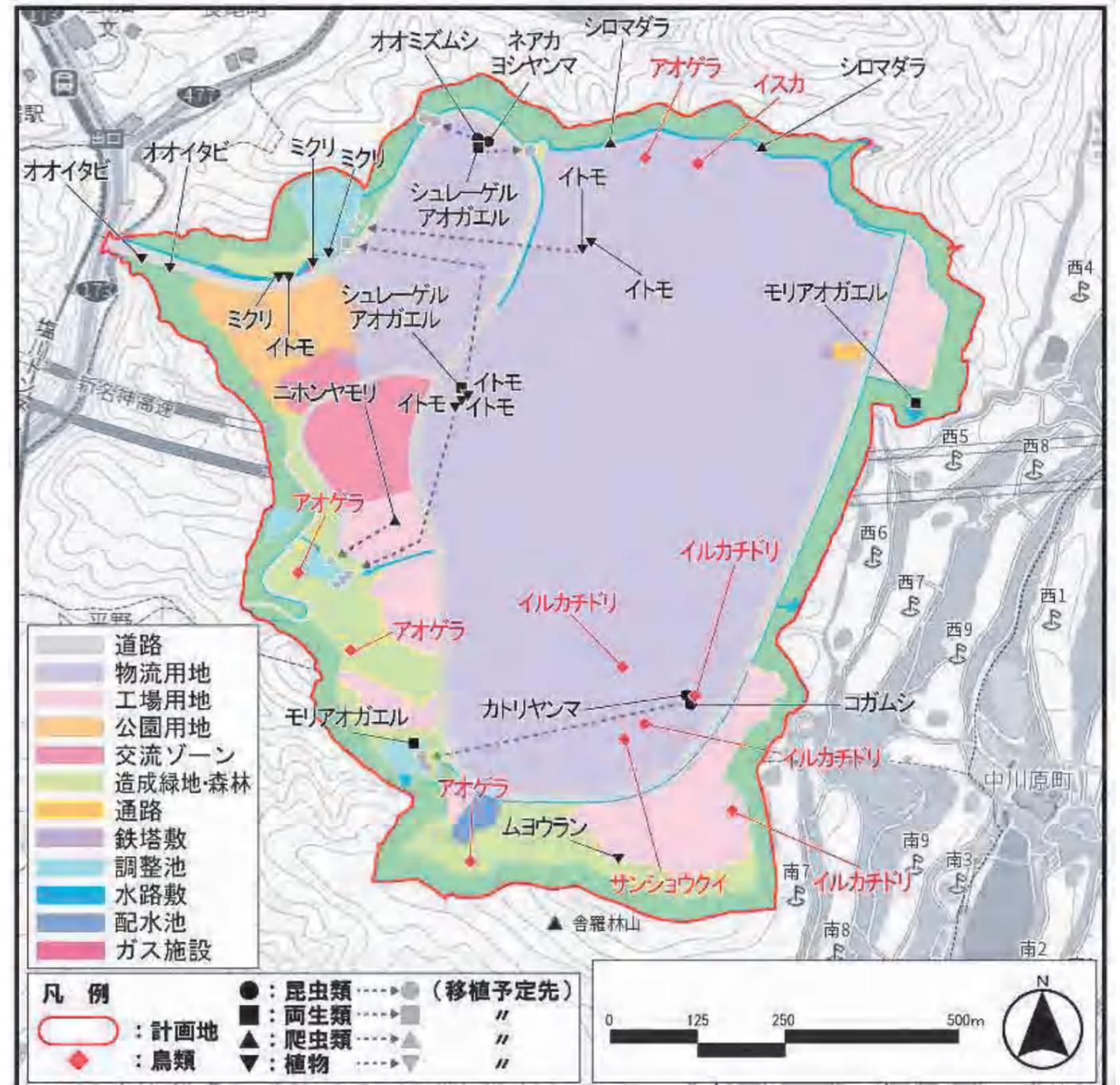
※網掛けは本調査で確認された重要種区分

②重要種の保全

○改変地域以外に生育、生息する重要種は、そのままの環境を維持します。

○改変地域にあり、重要種は移植できる種については、調整池等に移植を行います。

○鳥類については、退避場所を確保しつつ、工事を進めます。



調査機関：株式会社エスパシオコンサルタント

調査日：①水質：令和3年9月10日

②大気：令和3年9月3日～9月10日

③騒音（騒音の状況）：令和3年9月15日6:00～9月16日6:00
（自動車交通量の状況）：令和2年11月8日6:00～11月9日6:00

④振動（振動の状況）：令和3年3月7日8:00～3月8日8:00
（自動車交通量の状況）：令和2年11月8日8:00～11月9日8:00

⑤植物・動物：令和3年6月2日～6月9日

第1章 事業計画概要

1-1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事業所の所在地

事業者の名称 : 野村不動産株式会社
 代表者の氏名 : 代表取締役社長 松尾 大作
 主たる事業所の所在地 : 東京都新宿区西新宿一丁目 26 番 2 号

1-2. 対象事業の概要

1-2-1. 事業の名称

(仮称) 北伊丹物流施設計画

1-2-2. 事業の規模

本事業は、表 1-2-1 に示すとおり、延べ面積が約 104,891m²であり、伊丹市環境影響評価に関する要綱第 2 条別表に示される対象事業（大規模建築物の建築）に該当する。

表 1-2-1 事業の種類及び内容

事業の規模	延べ面積（容積対象面積）：約 104,891m ²
事業の種類	大規模建築物の建築 建築基準法第 2 条第 1 号に規定する建築物（住宅施設を除く。以下「特定建築物」という。）であって、当該特定建築物の延べ面積（用途が不可分の関係にある 2 以上の建築物の場合においては、その延べ面積の合計をいう。以下同じ。）が 3 万平方メートル以上のものの新築及び増築、又は特定建築物の増築であって、初めて当該増築により当該特定建築物の延べ面積が 3 万平方メートル以上となるもの。

1-2-3. 事業の目的

近年、通信販売需要の急伸などを背景に、大量の配送物を短期間で処理するための先進的物流施設の需要が高まっている。

(仮称) 北伊丹物流施設計画（以下、「本事業」という。）の事業計画地は、伊丹市の北部に位置している。

当該エリアは、国道 171 号が東西に横断し、阪神高速道路の池田出入口、中国自動車道の中国豊中 IC 及び宝塚 IC に約 10 分でアクセス可能な交通インフラの充実したエリアであり、かつ、大阪国際空港（伊丹空港）に近接することから航空輸送との連携も可能である。

また、当該エリアは、伊丹市、川西市、宝塚市、池田市及び豊中市の人口集中地区に囲まれている。

こうしたなか、野村不動産株式会社は、当該エリアの充実した交通インフラ等を活用し、最新技術を用いたマルチテナント型賃貸用物流施設を建設し、テナント誘致を図るとともに猪名川沿いに立地する産業施設等とも密接に関わりのある物流関連産業の振興により、雇用の創出及び周辺産業との相乗効果を発揮させ、地域経済全体の活性化を図ることを目的としている。

1-2-4. 事業の内容及び立地場所

本事業は、図 1-2-1 に示すとおり、伊丹市と川西市の市境にまたがるニデックオーケー（株）（以下、「Nidec」という。）の本社・猪名川製造所敷地の一部において、延べ面積が約 104,891m²の物流施設を建設するものである。

野村不動産株式会社は、Nidec による事業計画地の解体、整地が行われたのち、Nidec より事業計画地を引き受けることとなっている。

なお、Nidec は、本事業供用後も事業計画地外敷地において、事業を継続するとされている。

本事業の立地場所等の概要は表 1-2-2 に示すとおりであり、事業計画位置は図 1-2-2 に示すとおりである。

表 1-2-2 立地場所等の概要

所在 (地番)	兵庫県伊丹市、川西市 (兵庫県伊丹市北伊丹 8 丁目 10-1 他 3 筆)
位置	JR 福知山線「北伊丹駅」から約 0.6km 阪神高速道路「池田出入口」から約 2.5km 中国自動車道「中国豊中 IC」から約 4km 中国自動車道「宝塚 IC」から約 4km 大阪国際空港（伊丹空港）から約 3km
用途地域	工業地域（伊丹市、川西市）
建ぺい率	60%
容積率	200%
接道状況	敷地西側：県道尼崎池田線（片側 2 車線、幅員 27m） 敷地南側：市道北伊丹 7006 号線（1 車線、幅員 3.7m）
制限高さ※1	T.P. ※3 約 41～48m（おおよそ G.L. 25～38m※4 となる。）
浸水高さ※2	0.5m 以上 3m 未満

※1 出典：「大阪国際空港周辺における物件設置制限確認法 HP」に基づく（令和 5 年 11 月閲覧）。

※2 出典：「Web 版伊丹市防災マップ」における洪水浸水想定区域（想定最大規模降雨）
（令和 5 年 11 月閲覧）

※3 T.P.は東京湾平均海水面（Tokyo Peli）であり、日本の標高の基準を示す。

※4 G.L.はグラウンドレベルの略であり、地盤面からの高さを示す。なお、事業計画地の地盤面の高さは一定ではなく、また、事業工事に伴い、地盤面の高さは変動する可能性がある。

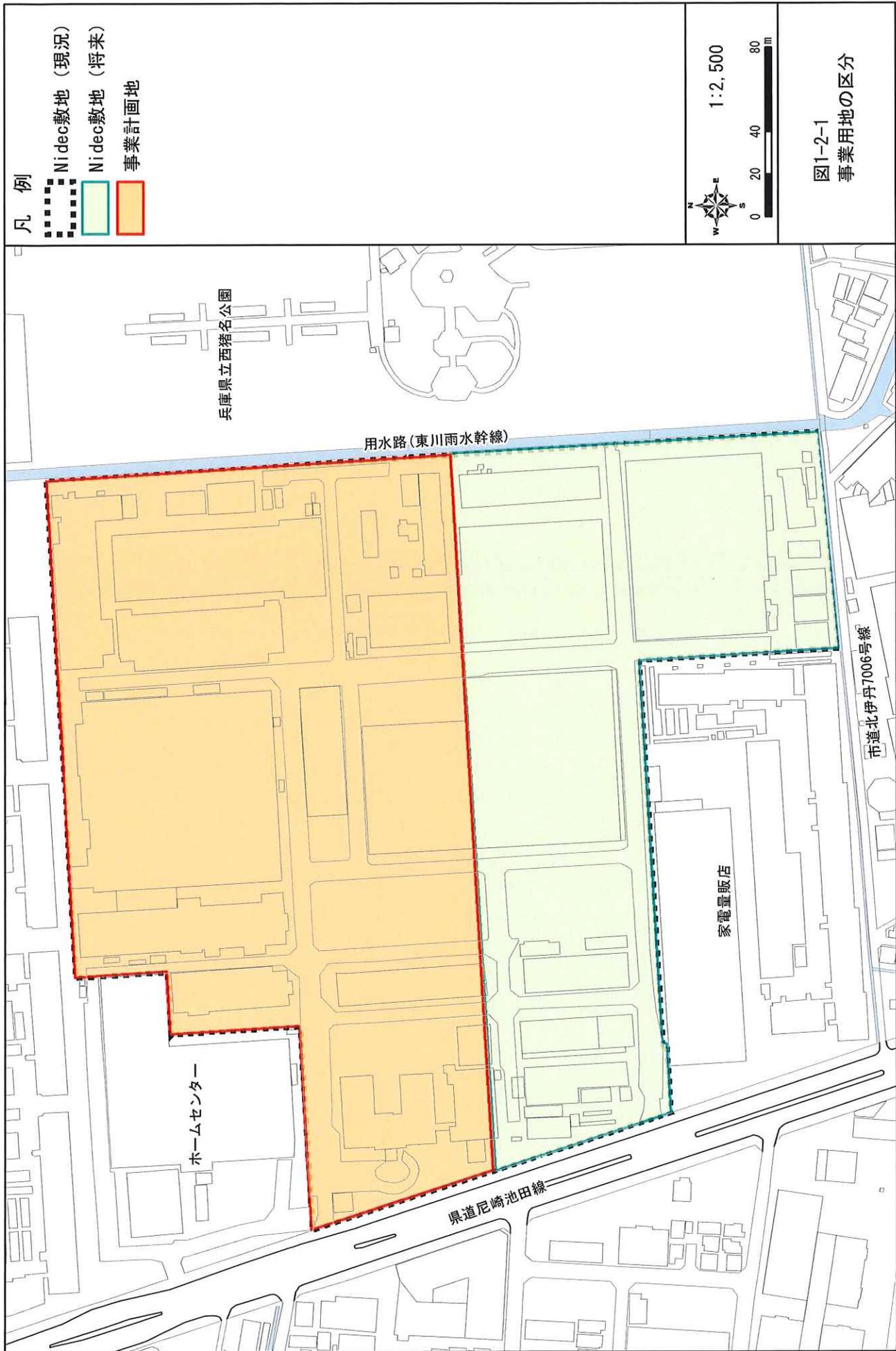
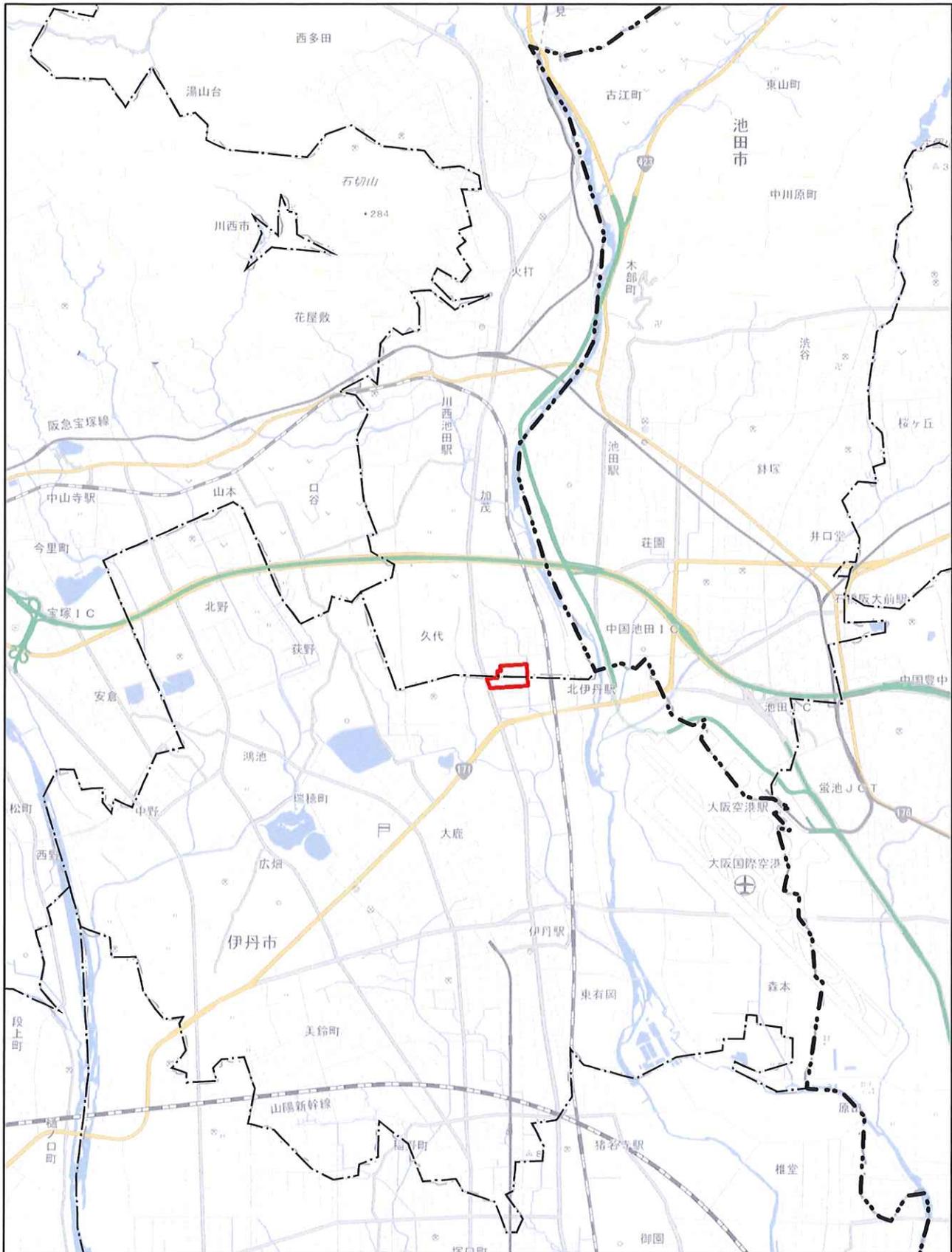


図1-2-1
事業用地の区分



凡 例

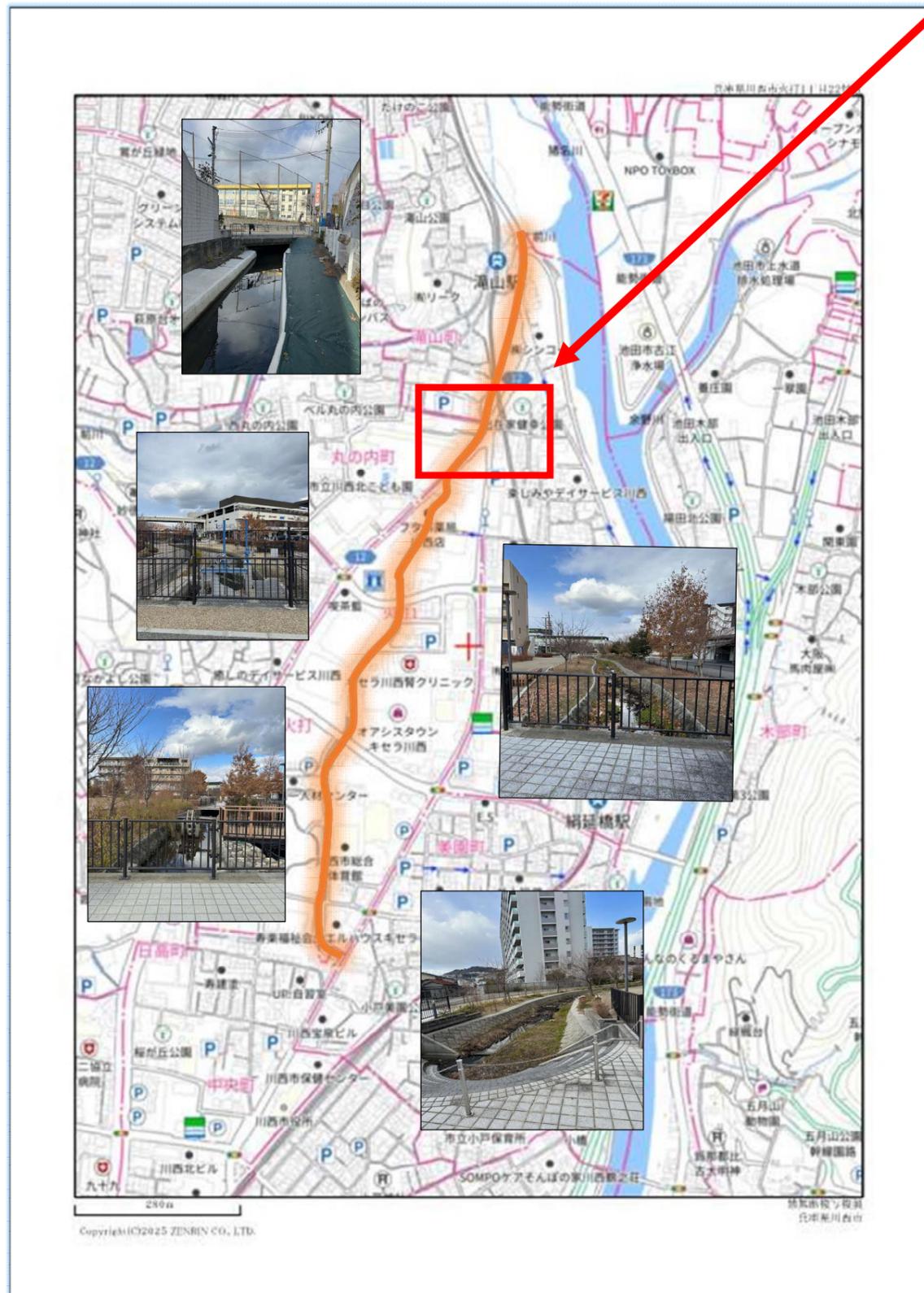
- 事業計画地
- 県境
- - - 市境

1:50,000

図1-2-2 (1)
事業計画地の位置 (広域)

(案) キセラ川西の市街地水路の水生物群の保存のための啓発について ～出在家町(川西北小学校横)～

<水路周辺地図>



【候補】川西北小学校フェンス



< 掲示物文言案 >

【希少生物アピール有りver.】

1.水路の豊かさを守ろう
～希少生物が暮らしています～

【希少生物アピール無しver.】

2.みんなで守ろう！水路の環境★

3.自然環境に関心を持とう！

～生態系を維持するためにできることは？～

<その他施設>

1.キセラ川西せせらぎ公園内掲示板



2.パークオフィスキセラ丸(キセラ川西せせらぎ公園内)



3.転落防止フェンス(水路沿いの複数箇所に有り)

委員会の開催計画について

開催回数 年2回

開催時期 8月頃と1月頃

① 第1回委員会（8月頃）

(1)内 容 前年度評価指標、進捗状況調査について報告

(2)施策担当課長 同席

② 第2回委員会（1月頃）

(1)内 容 8月委員会で議論が深まった内容についての議論、実施計画や予算要求
を経て変更があった施策について今後の方向性等について報告

(2)施策担当課長 必要に応じて同席

※上記の外、必要に応じて臨時会を開催

キセラ川西の台場クヌギ

【追加資料】

